

卷頭言

「ご挨拶」

宇田川 芳江

引き続き2年間、理事長の重責をお引き受けすることになりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

1986年協会設立時に入会し、2005年から19年間事務局長を担当してきました。2023年からは理事長と事務局長を兼任でしたので、夢中で過ごした2年間でした。やっと2025年からは事務局長を石川千鶴理事にバトンタッチすることができたので、少しほっとしているところです。

事務局長時代でいちばんに思い出すのは、2011年3月11日の東日本大震災のことです。当時協会事務所は、現事務所近くのライオンズマンション10階にありました。古いマンションでエレベーターは上昇中にグラグラ揺れ、部屋の床の隅はぼこぼこした所がありました。事務所というより山積みの荷物置場に近かったです。

14時46分頃に大きな揺れがきて部屋の棚の物が全部落ち、職員と私はとっさに机の下にもぐったものの、落ちてきた物に埋もれて、別の職員になんとか引っ張り出してもらう羽目になりました。

10階から慎重に階段を降り、新宿通りを駅に向かって歩きだしました。しかし、着いてみれば電車は止まり、あちこちに人が座り込んでいました。私はもう八王子まで帰ることは諦め、蟻の大群のように駅に向かう人の群れをかき分けながら事務所に戻り、その日は物が散乱したところに段ボールを敷いて寝ました。翌朝、新谷前理事長がおにぎりを持って様子を見に来てくださったのは嬉しいことでした。

阪神大震災、中越、東日本、熊本、能登と大きな地震が日本を襲います。異常気象からくる豪雨や大型台風などの現象も、年々激しさを増してきているようです。

中途失聴・難聴者の当事者団体として、防災や減災について考えていくべき課題は多くあります。

災害対策基本法では、「要配慮者」「避難行動要支援者」という重要な理念があります。これらを生かすための学習も大切です。

協会としては、今後も関係団体とも連携しながら、取り組みを続けていけるよう尽力したいと思っています。